

「技術書」の読書術 達人が教える選び方・読み方・情報発信&共有のコツとテクニック

IPUSIRON (著), 増井敏克 (著)

単行本, 272ページ, ¥2,200-
(翔泳社, 2022年11月4日)

書評の投稿を繰り返しているうちに、いつの間にか「室内環境のブックレビュー (非公認)」状態となっていました… (笑)。とはいうものの、私の拙いレビューが少しでも会員の皆様のお役に立つならば、これ程嬉しいことはありません。専門書については各分野の詳しい先生方にお任せするといたしまして、ジャンルを問わず、会員の皆様に役立つ本を紹介させて頂ければと考えております。今後とも、何卒宜しくお願いいたします。

さて、食品原料商社に勤めて6年目になりましたが、業務上職場の内外で実に様々な質問を頂戴します。自身の専門である化学は勿論、物理学、生物学、医学に法律、栄養学、デザイン…挙げるとキリがありません。学生であれ、社会人であれ、自身でわからないことは学習せねばなりません。学習の際に利用するものには各種メディアや論文、専門家に直接話を聞くなど、様々な手段がありますが、初めての分野を体系的に学ぶ場合、やはり本による学習が一番効率的且つコスパが良いといえます。しかしながら、書店には星の数ほど本が溢れており、どの本を買えばよいのかわからない、いざ入門書を買ってみたけど、内容が意味不明で挫折…あるあるですね。

文芸書ならともかく、技術書・専門書については自身のレベルや目的に合わせた選び方、読み方が必要になってきます。本書は①選び方、②読み方、③情報発信&共有という三つのセクションに分かれており、著者らが実践している方法やお勧めの方法を紹介しています。①では入門書が簡単な内容とは限らないカラクリの解説、書店や図書館の活用法など、知っているだけでも本を選ぶのが幾分楽になる即効性のテクニックが紹介されており、私自身、かなり役に立っています。②では単なる本の読み方に留まらず、読書や学習に役立つ様々なデバイスやツール、アプリが紹介されているのも嬉しいです。これらを上手く使えばインプットの量も質も大幅に向上するため、目的や使い勝手の面で、自身と相性の良いものを積極的に活用したいところです。そして③では読書により学習した内容を知識として定着させ、さらに成長するために効果的なアウトプットやディスカッションの方法について書かれています。私たちが普段行っている学会発表や論文執筆以外にも、ブログや投書、勉強会など、身近な場所や手段を学習の場として活用する方法など、実践しやすいものが多いので大変助かります。

著者らは情報工学が専門でありながら、それ以外の分野の技術書・専門書は勿論、文芸書や本以外の資料 (論文、情報サイトなど) などにも十分応用が可能であり、単なる「読書術」のみならず、「(一生モノ) 学習の仕方を学べる」というのが、本書の最大の特徴といえます。特に学生会員をはじめとする、20~30代の方にオススメの1冊です!

(フロンティアフーズ株式会社 技術部 村田 真一郎)

